

文化高知

2000年3月 NO.94



「母と息子」 生野宏宜

〈もくじ〉

一燈照隅とまちづくり	坂本導彦	2
感激なき人生は空虚なり	田村金壽	3
高知市におけるALTの活動	森 利美	4~5
牧野富太郎記念館開館に寄せて(下)	里見和彦	6~7
マリアン・メイトリスの俳句	細川隆弘	8~9
エリザベス・サンダースのことを知っていますか?	大南勝彦	10~11
とびっきりのクリスマスプレゼント	伊藤博子	12
高知県のニュースポーツの現状	浜田康行	13
風俗歳時記・風伯		14~15

(財) 高知市文化振興事業団

「燈照隅とまぢづくり」

坂本導彦

私の居住する横浜瀬戸地区では、

三十名ほどで構成するコミュニティ計画推進市民会議を組織してすでに四年目を迎えています。「日本に誇れる良質な住居地区をつくらう」をキャッチフレーズに、自分たちのまちは自分たちでつくる活動を推進しています。これは、高知市総合計画（一九九〇年）でコミュニティ計画が政策の一つに位置づけられ、市民主導のまちづくりを目指してスタートしたもので、市内十六地区で同様の活動が進んでいます。

現在当地区では、大きく三つの活動を進めています。第一は、花いっぱい運動です。地域内の沿線や公園などを花でいっぱいしようという取り組みです。これまでに十一の花いっぱい会が結成され、横浜新町では活動を始めて三年目でやつとメイソ通り沿線が花でいっぱいになりました。

した。

第二は南嶺ハイキングコースの整備です。宇津野山―鷲尾山―烏帽子山と連なる尾根は、横浜側からも潮江南側からも手軽に登れるルートが数多くあり、また太平洋や高知市内を一望できるポイントがあるなど、ハイカーには結構有名なところですがそこに案内板、道しるべ、ベンチを設置して、登る人への道案内や家族で憩える場所として整備しました。今年度は、鷲尾山の頂上にパノラマ板を設置しますが、潮江南地区もこの活動に加わり北側からの道しるべを増設しました。また、最近では誰かが新たにベンチを数カ所作ってくれています。誰が作ったものかほとんどの利用者は知らないと思いますが、通った人それぞれが感謝してくれている様子は、設置した者として大変嬉しい限りです。

第三は今年度になって本格的に始めた地区防災マップづくりです。地震や台風、豪雨災害などに際し、近隣で自主防災組織をつくる契機にしようとして作成しているもので、横浜瀬戸地区の災害危険箇所や避難場所、緊急連絡先など各家庭に一部ずつ配布して活用してもらおう計画です。三月には全戸配布できるのではないかと思います。

これらの活動のポイントは二つあります。その一つは、まず地域全体の利益を考え自分たちの力でできることから始めていることです。もう一つは、徐々にですが地区内外で活動の広がりを見せていることです。

ところで、今行財政改革の一つとして地方分権や住民自治への取り組みが進められ、今年四月からは地方分権一括法が施行されます。これを実現するため私たちに求められるものは、主権者としての自覚と自立ではないでしょうか。何でも行政に依存する姿勢を改め、たとえ小さなことでも市民自らが志を持って始めることが大切だと思います。その中から行政と住民の役割が明確になり、真のパートナー



横浜新町での花いっぱい運動

シップが生まれてくると考えます。ここに「燈照隅万燈照国」という言葉があります。「一人一人が自分のできることを一生懸命やる。そんな人々が集まり、やがて地域全体が良くなる」と理解できます。私たちのような活動の輪が少しずつ広がりがて地域全体を覆う、そんな高知にしたいですね。

さかもとみちこ／土佐経済同友会地方行政委員長・横浜瀬戸コミュニティ計画推進市民会議事務局長

感激なき人生は空虚なり

―高知市・わが青春の街―

田村金壽

「感激なき人生は空虚なり」これは私の母校旧制高知高等学校（小津町）の初代江部惇夫校長の碑文である。

正確には、大正十二年四月十六日、第一回生の入学式で、校長が「感激あれ若人、感激なき生活は空虚なり」と訓辞され、これが建学精神となった。

人生には富や名声よりも、感激ある日日、感激の出会いが大事だということを言われている。

私は浦の内に生まれたが、旧制城東中学（現追手前高校）から旧制高知高校卒業までの八年間を高知市で過ごした。

高知市は、南に太平洋の黒潮が流れ、その潮流は浦戸湾の隅々まで満たし、北は四国連山の山裾が静かに街を包む、春夏秋冬は変化に富み、南国的開放的で感激性に富む「異骨相」と「はちきん」の住む街である。

高知はまた歴史の街でもある。特に幕末には国（藩ではない）のため、自己の犠牲を顧みず活躍した多くの志士が、この街から飛翔していった。坂本龍馬のように、先見性、行動力、柔軟性を生まれ持ち、薩長連合、大政奉還に関わり、同志たちと近代日本の扉を押し開け、無我無欲にし

て日本史の奇蹟といわれた人物がいる。龍馬だけではない、幕末に活躍した高知周辺の人物には、武市半平太がいる。長岡謙吉、近藤長次郎、池内蔵太、望月亀弥太、土方久之らもいる。上士では板垣退助、後藤象二郎もいる。多士濟々である。今でも高知の街角や、路地裏の志士の



県立城東中学（現追手前高校）東京同期会

碑がそのことを物語っている。

徳川幕府に恩顧のある土佐藩山内家の城下町から、このように多くの若者が改革を志し、倒幕に参加したという現象は極めて珍らしいこと、その理由はいろいろ言われているが、私は土佐人の体質に反骨の遺伝子があると考えるのが、もっとも納得で

きると思うのだが。さて、私が過ごした昭和十七年（十三歳）から昭和二十五年（二十一歳）の時期は、戦中戦後の疾風怒濤の時代で、戦争末期には米軍機の空爆で高知市は焦土と化し、昭和二十年八月の終戦の時は、人々は大きなショックを受け、戦後は混乱の世の中で食糧も枯渇していた。

しかし、いつの時代でも、どこに居ても、若者たちの心の中からロマンチズムとセンチメンタリズムは消えることはなかった。感激性が残っていた。今でも、ふと想いを馳せると、品格ある母校の時計台、従容として天空に聳える高知城、月の桂浜の龍馬像、天神橋から眺めた鏡川の水面、筆山から見た夕焼けの市街地、日曜市の賑わい、恩師や友人知人のあの顔の顔が、私の脳裏に走馬燈のように甦る。

あれから時移りて五十年、東京生活が長くなったが、もし、昔を今に戻すことができるなら、私は高知で住みたいと思う。

この街は私にとって感激と感傷の日日を記した街である。「感激なき人生は空虚なり」は私の人生の道標になった。

たむらかねとし／企業顧問医・東京龍馬会会長



「無感激人生空虚」の碑（高知大学教育学部附属幼稚園内）

高知市におけるALTの活動

森 利美

ALTとは

現在高知市教育委員会には、五名のALTが所属しています。ALTとは、外国語指導助手 (Assistant Language Teachers) のことです。アメリカ合衆国から三名、イギリスから一名、そしてカナダから一名のALTを招致しています。ALTは主に高知商業高校と市立中学校をベーススクールとして一週間に三〜四日勤務し、他の日は市内の小・中学校を訪問して英語授業の補助や英会話の指導を行っています。

高知市が初めてALTを導入したのは、一九九〇年八月のことです。すでに十年が経過しました。それまでは、県所属のALTが県下の学校を訪問し、高知市にも希望に応じて派遣してもらう形態をとっていました。が、市町村単位で外国青年の受け入れが可能となった一九九〇年に米国から初めてALTを招致しました。

国際理解・国際協調を基盤とする「教育の国際化」が各方面から叫ばれ、現場からの派遣要請も次第に多くなり、最初はたった一名だったALTも現在は五名に増え、外国語の授業はもとより、その他の教育活動においても活躍しています。



ALTとのチームティーチング

学校における活動

ALTの主たる活動は、学校における外国語(英語)授業の補助です。英語担当の日本人教員と協力してチームティーチングを行い、生徒たちに「生きた英語」に触れさせ、コミュニケーション能力の向上を図ることをめざしています。

私自身、中学校現場でALTとのチームティーチングを行ってきましたが、ALTが教壇に立つと普段の授業とは雰囲気が変わり、生徒たちの目や耳がALTに集中していくのがよくわかりました。「英語を勉強しているのではなく、英語を使っているのだ」「英語を暗記してしゃべっているのではなく、相手と対話しているのだ。」と思うことは語学

を学ぶうえで最も充実感を感じることはないかと思えます。「生きた」英語に触れることはこんなにも生徒たちの好奇心をくすぐり、新鮮な驚きや感動をもたらすものかと感じる

ことがよくありました。最近では、ALTとの授業が習慣化し、生徒たちが初めてALTと出会った時の緊張感も以前ほどではなくなっているように思いますが、

ALTとの授業を通して、積極的に英語を使おうとする態度や、異なる文化に対する興味・関心は高くなっています。最近では、中学校や高校だけでなく、小学校も訪問しています。ただ、中学校のような外国語教育としては、国際理解教育の一環として、英語を使った歌、ゲーム、遊び等を通して子どもたちが英語に触れ、外国の生活や文化等になれ親しむことができるように活動を工夫しています。

子どもたちに英語を覚えさせるのではなく、自分とは異なる文化や習慣に気が付きそれを受け入れること、自分から積極的に相手とコミュニケーションをとろうとする姿勢を自然に学んでいくことを大切にしたいと考えています。小学校におけるALTの活動についてはまだまだ初期の段階であり、研究や研修を深めていく必要がありますが、今後ますます活発になっていくことはまず間違いのないといえます。

学校以外での活動

ALTは学校訪問だけでなく、生徒たちを対象にした英会話セミナーや教員対象の英語研修にも積極的に

参加しています。高知市では、毎年夏休みに中学・高校生を対象に英会話セミナーを実施しています。今年度も工石山青少年の家で二泊三日の日程で合宿をしました。今年は高生生の応募がなく、中学生三十三名とALT七名の参加でしたが、英語でのオリエンテーションをしながらの登山、グループ毎に英語で出し物をするキャンプファイヤー、言語活動を中心とした英語演習等、ALTが工夫して企画、運営した楽しい合宿でした。ALTと寝食を共にしながら、日常会話や言語活動を通して外国語に関する関心や理解をさらに深めることができました。

二十一世紀を目前にして、私たちは物事を全球的規模で考えなければならぬ時に来ているように思います。国際理解教育・外国語教育の果たす役割は、ますます重要になってきます。進展する国際化社会に対応し、豊かな「国際感覚」を身につけ、広い視野で世界を見つめることのできる子どもたちを育てることができるよう、ALTの活動もますます充実、発展させていかなければと思っています。

もととしみ／高知市教育委員会
学校教育課 指導主事



工石山青少年の家での英会話セミナー

牧野式植物の世界

里見和彦

「文化高知」の読者の皆様、二月ぶりにお目にかかります。私の勤める五台山の牧野植物園では、やっと長い冬が終わり告げ、シナマンサクやタイワンツバキ、そして牧野博士がこよなく愛したバイカオウレンなどがかわいらしい花を開きはじめました。

前号では牧野富太郎記念館の展示設計を担当した者として、博士の生涯の一面にふれてみました。今回は、常設展示のもうひとつのテーマである「植物の世界」について、お話をしようと思います。

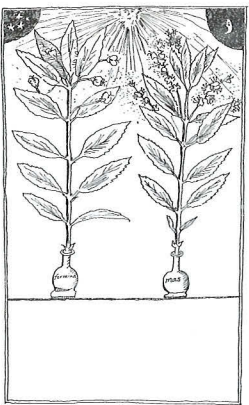
植物たちの人生を見せる展示

「植物知識」という著作の冒頭で牧野博士は次のように述べています。

地で芽を出して成長し、再び親と同じ方法で蜂や蟻の手助けにより、子づくりをします。

人がひとりだけで生きていられないように、植物たちもまた、まわりの生物たちとのかわり合いの中で尊い生命を継承していくのです。

この展示企画案を植物園に提案した一年後、博物学に関する本を流し読みして、私はその本の著述に驚きました。それは近代植物分類学の祖、カール・フォン・リンネ(一七〇七―一七七八)が二十二歳の頃に、大学の先生に贈った一篇の詩「植物の婚礼序説」についてのものでした。その詩は、植物がどのようにして子供をつくるのかを、自筆のイラストとともに論説したものでした。若きリンネが言うには、雄しべはお婿さん、雌しべは花嫁、夢は結婚式の床、花びらは新郎新婦をあたたく祝福する式場の絨毯……。太陽の恵みを受け、すくすくと成長



リンネ「植物の婚礼序説」扉絵(里見和彦模写)

花は、率直に言えば生殖器である。花は誠に美麗で、且つ趣味に富んだ生殖器であつて、動物の醜い生殖器とは雲泥の差があり、とても比べものにはならない。云々……

東大の教授なら憚るであろう物言いを、牧野博士(東大万年講師)はあえてします。おそらくそうすることにより、植物の知識を一般に向け



「植物の世界」展示室で遊ぶ子供たち

した二人は今ここで厳粛に新たな生命をつくる儀式をとり行っているという論旨でした。この一篇の詩がベースとなり、その後のリンネの分類大系に発展するのです。

近代分類学の起源とも言える一篇の詩が、私の展示企画の視点にはかからずも符合し、その語り口がおおらかな性の表現を好んで語った牧野富太郎の視点にも無理なくとけこんでいることを確認し、私はその実施設計にとりくんだのでした。

牧野博士のおおらかな性表現

性の力の尽きたる人は息をしている死んだ人これは牧野博士が残した数多くのうたの中で、私が最も好きな都々逸です。

現代では、性というものが尊く美しいものであることと、生命の尊厳とをきちんと伝える教育がなされず、それを伝えるために有効な理科や生物の授業が、進学のためのものとしかたえられていないのが実情です。自然観察を通して生命のふるまいにふれていく中で、牧野博士もリンネも、またアンリ・ファーブルも生物にとつての性の衝動の清らかさを素直に見つめていました。

て印象深く伝える戦略なのでしょう。その冒頭のつかみに続けて博士の言は、生物はすべて子供をつくり、その生命を次代に継承していくことを目的としており、我々は永遠に続く生命の連環の中継ぎ役として今を生きていると展開していきます。このように博士は、一般向けの啓蒙書で、人間と植物とを同一視する語り方を時々しました。

これは牧野博士独特のレトリック(修辞)であり、擬人法で語ることにより、人が植物の生態を身近なものとしてとらえられるようにした表現です。近代科学では否定されているような表現を博士はあえてしています。

その他にも博士は、各地での植物採集会や子供向けの科学雑誌などで、受け手側が自ら楽しんで植物を学ぶことをうながす語り方により、植物知識の普及を試みています。

「植物の世界」の展示設計方針は、その博士の表現方法の立体化であり、模型組み立てゲームや擬人化表現などにより、植物たちの生命のふるまいを楽しみながら学べるように構成しています。

導入部に、「花の結婚」というコーナーがあります。この展示の主旨は、動くことの出来ない植物が、い

私は定年までの間に、牧野植物園内に小さな施設をつくり、生命の尊さを伝えるための、教育普及の場を創造してみたいと考えています。

牧野式植物の世界

常設展示「植物の世界」の目的がどこにあるのか、それは、我々人間とは異なる生き方をしている植物たちの生命のふるまいに接し、それに興味を持ち理解をしていくことが、自然全体の理解につながり、やがてその理解が人類愛に育ち、より良い未来社会の構築への一助としたいという願いなのです。

牧野博士のうたをもうひとつご紹介いたします。

植物採集行進曲(昭和七年作) 第五番

♪草木可愛の心をひろめ
愛し合いましょ我ら同志
思い遣りさえこの世にあらば
世界や平和で万々歳

心のオアシス牧野植物園

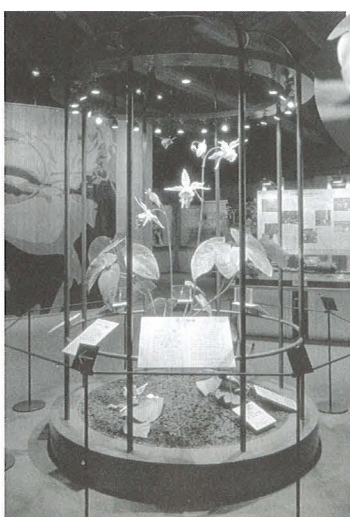
日々の暮らしには、どうしてもストレスがたまりまます。それは誰しも避けては通れないことだと思えます。そんな時は、五台山に牧野植物園が

かにして子供をつくり、生命を次世代に伝えていくのかということにあります。ここでは西日本に固有のヒメイカリソウの例をとりあげ、時間の経過に沿って、拡大模型とナレーションで構成しました。

蜜を吸いに来た蜂に、ヒメイカリソウの花は雄しべの花粉をふりかけます。そうとは知らぬ蜂は次の花の雌しべに花粉を届けます。花粉を運んでもらった花はみごもり、母親の子宮とも言える子房をふくらませ、子供(種子)を地上にバラバラと散布します。種子には甘いお土産(エライオソームという物質)が付いており、それを目あてにした蟻が種子を遠くへ運びます。幸運にも住み良い環境の地に辿り着くことの出来た子供(種子)たちは、その



ヒメイカリソウの花の蜜を吸うマルハナバチ



「植物の世界」花の結婚

あることを思い出して下さい。ここに来て、ただ風の音や空気の肌ざわりを感じて下さい。そして願わくば、ひとつの植物の名前を憶えて下さい。きつと気持ちややさしくなつて、新鮮なまなざしで日常生活に戻ることが出来ると思えます。牧野植物園はそんな場所になりたいと思っています。



牧野植物園でタカサゴユリと語る少女 1999年夏 photo: 川廷昌弘

上下二回にわたり、おつきあひ下さいまして、ありがとうございます。今度は是非、牧野植物園でお会いしましょう。その日まで皆様お元気で、それではひとまずさようなら。さとみかずひこ/元株サザン クロススタジオ取締役・現高知県立牧野植物園主幹・日本展示表現研究会会長

マリアン・メイトリスの俳句

— 高知での東西文化の融合 —

細川隆弘

去年の4月に、英国の著名な化学者メイトリス教授ご夫妻が高知に4日間滞在された。4度目の来日ですが、高知へは初めての訪問です。教授は、私がカナダで博士研究員として過ごした時の先生です。高知滞在中のご夫妻の宿は、香北町のホテル「セレネ」。この香北町周辺と、その後訪れた仁淀川の中流域は「スイスよりも美しい」と、日本の自然の美しさを改めて見直されていた。

高知工科大学での「環境と調和する触媒反応」と題する講義では、学部学生に私が通訳をしながらと、初めてのことで少し戸惑われていた。その後、学生達と土佐和紙工芸村「くらうど」を訪れ、レストラン「KYO」で夕食。教授は「今日は、韓国でエリザベス女王を囲んでの晩餐会がある。英国大使からこの晩餐会に招聘さ

れたが、この日は高知工科大学を訪問することになっていたの、この晩餐会への招待を断った」とのこと。訪韓中のエリザベス女王は、4月21日にソウルで73歳の誕生日を迎えられていた。「もしかすると、この料理は、女王を囲んでの晩餐会の料理よりも美味しいのでは……」と夫人とめくばせをされ、土佐の食材のフランス料理とそれらが盛られた器を賞賛。食事を共にした私達も嬉しくなる。

メイトリス先生は、滞在中は、日本酒を飲むことを好まれる。香美郡夜須町の「海辺の果樹園」で、私と家内の4人での夕食の折、若いウエイトレスの「お飲み物は？」との問いかけに「日本酒を1本」(one bottle of sake)

土佐和紙工芸村で（左から）メイトリス教授、筆者、マリアン・メイトリス



「えっ…、たった1本ですか？」

とウエイトレスは、目を丸めた様子。高知県の人はお酒を飲むことが好きなので「箸拳（ハシケン）」という遊びや「ベク杯」の話をしたところ、メイトリス夫人（マリアン）は、

We ask for sake

Why's the Kochi girl amazed?

"Only one bottle?"

(お酒を注文。「たった1本ですか？」と、高知の女性が驚いたのはどうして?)

と俳句もどきの作を帰路の車中で思案された。

今回の来日では、夫人は「俳句」に魅せられておられた。マリアンと家内が桂浜を訪れた時、2人のご婦人が海辺にたたずみ句作をされていた。片言の日本語でおふたりと俳句について語り合われ、この偶然の出会いを大変喜ばれていた。その後、訪れた高知城では、高知県独特の激しい雨。その時に詠まれた作は

Like the enemy

of yore. Thunder of rain on

Kochi castle walls

(過ぎし日の敵襲のように、激しい雨音が、高知城の城壁を射つ)

俳句をよく理解していない私にも、この句は素晴らしく思える。これらの句は、英語での五・七・五の音律になっている。

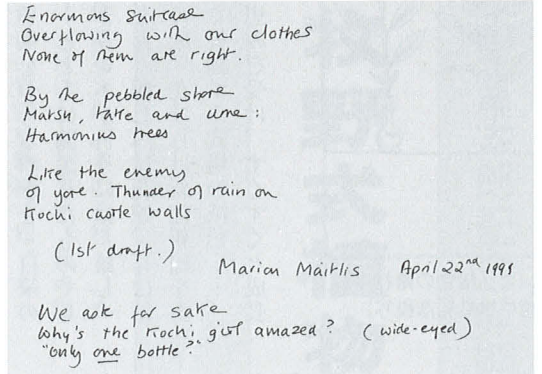
帰国されたメイトリス夫人から、「The Penguin Book of Japanese Verse」(G. Bownas, A. Thwaite 著, Penguin Books, London, 1998)と題する1冊の本が私に送られてきた。この書には、芭蕉の「古池や蛙飛びこむ水の音」が

Old pond

Frog jumps in

Sound of water

となっている。この有名な句は、禅の世界の直感的なひらめきとされている。上五は、“変化しないもの”、中七は“動く一つの瞬間”を表



マリアン・メイトリス自筆の英文俳句

し、この二つの接点が“飛び跳ねる音”として表現される。季節の変化の中で、「この世界の刹那」を五・七・五の音律で切り取る「日本のこころ」に、この芭蕉の俳句を通して、マリアン・メイトリスは近づこうとしていると、私は思っている。

2000年が明日から始まる夜、マリアンから「良き新年を」との国際電話がかかってきた。私はいま、「マリアン・メイトリスの俳句」と題する随想を書いていると告げ、これらの句を発表することの許しを得た。これらの句を、五・七・五の日本語に訳することの難しさを述べたところ、「句の作り方が拙いからでしょう……」と謙遜される。いや、そうではなく、そのことは文化や習慣の違いを持つ「ことば」そのものにある。異なる言語による俳句は、この世界を新しく躍動させる。私はつたない英語でそのことを述べていた。

追記：高知工科大学物質・環境システム工学科3年生で、4人のお子さんを持つ社会人学生の南貴美さんは、これらの句を五・七・五の音律で次のように訳した。

○オーダーに「えっ！熱燗一つ？」ウエイトレス

○雷いかづちや つわもののごとく 高知城しるを打つ

(ほそかわたかひろ／高知工科大学大学院教授)

エリザベス・サンダースのことを知っていますか？

澤田美喜(岩崎弥太郎の孫)「エリザベス・サンダース・ホーム」秘話

大南勝彦

駐留アメリカ兵と日本人女性との間に生まれた孤児を預かり、育てた「エリザベス・サンダース・ホーム」(神奈川県大磯駅前)は、第二次大戦による暗い戦後史の中で、ひとすじの、人類愛に満ちた光芒を放った。

創立者であり、死に至るまでその運営にたずさわった澤田美喜さんの名も又、戦後史の中で、日本人なら誰一人知らない者はなく、子供たちへの一途な愛と行動は国際的な反響を呼び、国内のみならず海外でも、その業績をたたえる賞を受けている。

私はこのサンダース・ホームと、不思議な形の出会いをした。

私のもとに、二冊のNHK台本がある。一つは、昭和三十七(一九六二)年三月に私が書いた一時間のラジオ・ドラマ「ナナさん」で、サブタイトルに「ミス・エリザベ



澤田美喜さん。昭和55年4月、スペインへ旅立つ日の横浜で。これが日本での最後の遺影となった(鯛茂氏撮影。サンダース・ホーム提供)

ス・ホームと、不思議な形の出会いをした。私のもとに、二冊のNHK台本がある。一つは、昭和三十七(一九六二)年三月に私が書いた一時間のラジオ・ドラマ「ナナさん」で、サブタイトルに「ミス・エリザベ

ス・サンダース物語」とある。もう一冊は、それから十四年半後の、昭和五十一(一九七六)年九月三日に放送された「ミス・サンダース物語」で、「テレビ・ロータリー」という枠で制作、私が解説役をつとめ、籠野アナウンサーが語りを、台本は伊藤雄治プロデューサーがまとめた。今から二十三年半前のことである。

私は昭和三十六年、二十九歳の時から放送作家として自立していたが、当時NHKに脚本研究会というものが見つけれ、私はラジオ文芸部の山口純部長のすすめでその会に入り、一カ月に一本の作品を書く条件で、月々一万円を支給されていた。前者はそこで書いたものだが、新人作家の養成機関であり、作品の力不足も

あつて放送はされなかった。後者の放送との間に十四年余の歳月が流れているのは、私が帝政ロシアとの交流史研究を始めて、記録文学「ペテルブルグからの黒船」(初刊・六興出版。改訂版・角川選書)を発表後、NHK国際局が制作する日本の国際放送「ラジオ・ジャパン」の、ソビエト向け番組嘱託として迎えられ、研究者生活に入ったからである。

エリザベス・サンダースは、英国、ワイト島の農家に生まれたが、やがて両親は、ヴィクトリア女王の離宮「オズボーン・ハウス」(島内のイースト・カーウズ)で、父は庭園の作業員として、母は家政婦として働き、幼いエリザベスは、宮殿敷地内の寮に、両親と住んでいたと思われる。

エリザベス三十九歳の時、彼女は、三井物産ロンドン支店に勤める三井高精と勇夫婦(三井財閥本家の一つ)の長男・高国の乳母(ナナイ)として雇われ、ロンドン郊外ハムステッドの三井家に住み込みで働くことになる。勇が病弱であったため、エリザベスは高国の母親代わりとなり、幼い高国は、「ナナイ」の彼女を「ナナ」と呼んで慕い、夫妻の帰国の際には、勇の懇望もあり、またエリザベス自身も高国と離れ難く、共

に来日して、東京、平河町の三井家に入った。大正二年のことである。そしてエリザベスは、勇の死により生涯を高国の母代わりとして三井家で過ごし、遂に一度も英国へ帰ることはなかった。これには、第二次大戦で日・英が戦火を交えるという悲劇があったことも、その背景にある。やがてエリザベスは、大腸癌で、敗戦の翌年、昭和二十一年十月、東京、中落合の聖母病院で亡くなる。七十四歳であった。

戦時中から戦後へ、このエリザベスを看病し、死を看取ったのが、同じ英国人を良人に持つミラー・トモエと、その妹で高国の恋人・里村チエである。私は、トモエさんと昭和三十六年に横浜で知り合い、彼女から、エリザベスのことを書いて世に残して欲しいと言われていた。トモエさんは、澤田美喜さんのエリザベス・サンダース・ホームの存在が日本中に知られていながら、三井財閥の一子・三井高国への愛に生きたエリザベスと、ホームの名称との由来が知られていないことに、強い哀しみを抱いておられた。日露史研究に没頭していた私は、トモエさんが昭

和四十五年に亡くなっていったことを知り、胸が痛んだ。冷戦時代ということもあり私の仕事は多忙で、英国取材が果たしたのは十二年後であったが、私はエリザベスの英国での一切を取材し、今から三年前の二月、ドキュメンタリー小説「エリザベス・サンダース物語」(ノーベル書

房・日本図書館協会選定図書)として、独身のまま三井家に生涯を捧げた彼女の一生を単行本にした。トモエさんの子息・佐藤登武氏が、全面的に協力して下さった。エリザベスの遺産五万円を、サンダース・ホーム設立の基金に寄付することに奔走したのは、私にとつてNHK国際局の先輩でもあるルイス・ブッシュ氏と、八ヶ岳山麓の清里を開拓したポール・ラッシュ氏である。ポールは戦前から澤田美喜さんの親友で、この三人は共に英国聖公会の信徒であった。

澤田美喜さんは、三井財閥の創立者・岩崎弥太郎の孫であり、高知県とは縁が深い。このことが、今回本誌に拙稿を書かせていただいた由縁である。サンダース・ホームは今、さまざまな事情で家庭や学校から離れた青少年少女たちを預かり、社会に送り出す教育を行っている。「ホーム」に来る子供たちの社会環境は変わっても、澤田美喜さんの精神はそのまま受け継がれているのである……

おのみなみかつひこ／日露交流史研究者。日本シベリア学会・日本放送作家協会会員。小田原市浜町三一一―三二



三井高国を抱くエリザベス・サンダース(ロンドン当時。ミラー・トモエ氏提供)



エリザベス・サンダースの十字架(横浜外人墓地。筆者撮影)

とびっきのクリスマスプレゼント

—土佐病院内ジャズコンサート—

伊藤博子

ある日、ジャズ・ソーセージの田辺浩三氏（県内ジャズ愛好家グループの代表）から突然電話がかかってきた。

「院内でジャズコンサートを開きませんか。演奏者は病院でのコンサートを希望しているんです。アメリカの新進気鋭のプレーヤーで、愛好家にとっては涎の出るような二人組なんですけどね」。そして、ピアノスト、フィリップ・ストレンジ氏とヴォーカリストのキャシー・シーガル・ガルシアさんのジャズ演奏に対する真摯な取り組みやアカデミックなお二人の活動歴を紹介された。

私は、話を聞いた瞬間、これは本物の音楽にふれることのまたとないチャンスかもしれない、と思った。ぜひ、病院へ来て患者さんたちに本物のいい音楽を、しかも生で聴かせ

てあげてほしいと思った。

しかし、病院のレクリエーション予算は順調に消化しており、ちょっと苦しい状況である。そこで思いきって院長に相談してみることにした。こういうチャンスはいつもやってくる訳ではないこと。実力も人間性も保証つきで精神病院での演奏に興味をもっていることなどを説明すると、院長・副院長から即座にOKをいただいた。

「たびたびの贅沢はむずかしいが、時にはいい音楽を聴くことは大事なことだね。クリスマスプレゼントということにしよう」。院長の快い返事に、私は内心こおどりして喜んだ。

患者たちの心深く刻み込まれるような、落ち着いた、深みのある、そしてクリスマスプレゼントにという院長のメッセージがきちんと伝わる

ような優しいコンサートにしたいと夢が広がった。

相談室の企画として、まず演奏者が満足できるように、きちんとピアノの調律をする、音響効果はアルテックにお願いする。そして、ホールの飾り付けはスタッフのセンスを生かして、音楽を邪魔しないようにそ

れでいてクリスマス華やかさをかもしだすようにと工夫を凝らした。相談室スタッフの中本さんのお父上には日曜日の一日、山に登って大きなかずらを探し、一メートルもある特大のリースを作っていただいた。手作りの飾り付けで、素晴らしいクリスマスリースができ、舞台を彩った。このクリスマスリースにはキャシー・ガルシアさんも大感激してく

ださった。当日は、午前中から熱心なりハハサルで、幾度となく音合わせを繰り返すその真剣さに感動した。ピアノストもヴォーカリストもPAの技師も、親指と人差し指でしだいに間隔を縮めながら、お互いに妥協を許さない厳しいプロの姿をそこに見せてもらった。

ジャズの何たるかも知らない私たちに對しても、決して手抜きをしない態度に、このコンサートは成功すると確信した。

昼食は、病院給食を味わっていた。お二人は、日本の病院食を食したのは初めてだ。「Very Good」

おいしかったと感想をいただいた。いつの間にか、すっかり病院の雰囲気に溶け込み、いよいよ開演10分前となった。患者たちは、常よりもほんの少しだけおしゃれをして集まった。

クリスマスデコレーションの華やかな会場にお二人が登場。「サマータイム」や「ホワイトクリスマス」といったスタンダードな曲を次々に演奏。コンサートは、「七つの子」「シャボン玉」を会場と一緒に合唱して最高潮となった。ソフトに静かにおさえた、心にしみるようなヴォーカルとピアノのコンビネーションが絶妙だ。会場は席を立つ者もなく、一時間半ジャズの世界にどっぷりと浸った。

いい奏者によるいい音楽は、どんな人にも充実感と、癒しと平和を優しく育んでくれる。

こんな時に「音楽療法」などと野暮つたい言い方はなしにしよう。いい音楽の前では、誰もがこころよく、やさしい気分になれるものだ。——いとうひろこ／土佐病院相談室——

高知県のニュースポーツの現状

浜田康行

余暇の時代、高齢化の時代を迎え、今までの仕事が人生の大部分をしめていた時代から、人生の「生きがい」は余暇時間の充実にあると誰もが考

える時代になりました。このような時代背景の中で、「いつでも、どこでも、だれでも」が参加できる楽しいスポーツ、遊び心でスポーツを楽しむいわゆるニュースポーツが見直されております。ニュースポーツとは、単に新しいスポーツという意味だけでなく「ニューコンセプト・スポーツ」すなわち新しい考え方のスポーツという意味もあり、まず、楽しむことを考えたスポーツであります。従来のスポーツは、汗を流し、厳しい鍛錬で体を鍛え、勝つことに主眼を置いたチャンピオンスポーツとして位置づけられており、その違いは明らかです。財団法人日本レクリエーション協会では、戦後の早い時期から楽しむ

こと、健康づくりを目的にニュース

ポーツの紹介と普及に努めて参りましたが、現在三十七種目団体とのネットワークが生まれ、全国で約九万人（高知県内約千三百人）のスポーツ・遊びのインストラクターが登録されております。高知県レクリエーション協会でも十数年前からニュースポーツ・セミナー、インストラクター養成講習会などで新しいスポーツの紹介と普及、指導者の養成を行

ってきました。

高知県のニュースポーツの現状は、わたしの把握しているものとして、ペタンク、グラウンドゴルフ、ターゲットボードゴルフ、インディアアカ、フライングディスク、国際スポーツチャンバラ、ネイチャーゲーム、ティボール、3B体操、パークゴルフなどが県下に広く普及し県レベルの協会組織をもち、大会の開催等が行われております。

このほか高知県レクリエーション

協会では今までに、フリーテニス、パドルテニス、ダーツ、リングテニス、シャッフルボード、ローンボウル、タッチラグビー、室内ペタンク、カローリング、クロリテイ、ブーメラン、バツゴ、ディスク等も紹介してきましたが、県下の大会等を開催するまでに普及がされてお

りません。これらのニュースポーツは体力的にも衰えをみせている高齢者や子ども、身体的なハンディをもった方でも気軽に参加できるルールや、楽しさの要素を取り入れるなどの工夫をして普及をはかっております。

余暇の時代、高齢化の時代に入りますます健康、なまづくり、生きがい課題となつて参りました。このような時代にニュースポーツ、生涯スポーツの果たす役割は大きいものがあります。ニュースポーツは、



ペタンク



インディアアカ



リングキャッチ

生き生きとした人生、充実した余暇、明るく活気のある町づくりに役立ちたいことが出来ます。厚生省では本年度、高齢者のスポーツ振興、ニュースポーツの普及のための助成を予算化、地域の老人クラブを通じて申請することができるようになっております。高知県レクリエーション協会ではこれらの活動に對して支援の体制を整えておりますので遠慮なく申し出て下さい。——はまだやすゆき／高知県レクリエーション協会理事長——



すべての道は、ポンペに通ず。水路に設けられたちょっと愉快的な橋を大川筋で見つけた。
正々堂々正面突破を狙うもよし、はたまた距離を測るとし字に進むべきか。ポンペを交換するガス会社の人もおおいに悩むところかもしれない。さて自分だったらどうしようか……なんて考えてみると、ほらちょっと楽しい気分になってきたでしょう？

風俗

オーリング科

大いに興味をそそられて、すこし調べてみた。
医学博士・日本気功協会理事・勝田正泰

また、この科が正式に設けられているのは、全世界で、この病院のみと聞く。

高知市内の某大病院に、「オーリング科」という診療科目がある。
といった、どっぴう患者を対象に、どのような診療を行うのだからと、かねて不思議に思ってきた。
同院の年報には、「オーリングテストを積極的に導入した診療」を行っている、とある。

基本的な方法は、検査Aは被験者Bと向かい合い、Bは片手の第一指と第二指で輪（オーリング）を作る。Aはこの輪に両手の第一指と第二指を通して輪を作り、Bのリングを左右に引いて開こうとする。Bはそれに抵抗して指先に力を入れて開かせまいとする。この時のBの指の強さを判定するのである。

適業診断の方法などについては、紙幅の都合で割愛させて頂く。

(一)

土佐弁 土佐日記

土居重俊 監修
高知市文化振興事業団 編



B6判・上製本・130頁
本体価格 971円(第2刷)

紀貫之の名著『土佐日記』を、現代とさことばでつづる。古典を身近なものにするとともに、土佐弁にも親しめる楽しい本。

珍聞土佐物語(上・下巻)

——五十人の語り部たち

依光 裕 編著



四六判
④392頁 ⑤408頁
本体価格 各巻1,553円

土佐の山や海辺の村の囲炉裏端で古老が語った地元の伝説や小咄の数々。親から子へ、孫へ語り継ぎたい「ふるさと」がここにある。

高知県文学散歩

岡林清水 著



四六判 278頁
本体価格 1,748円

高知県の文学を地域に即して紹介、その舞台、歴史、作家の足跡等を訪ねて歩く“旅のなかの文学史”ともいえる文学案内。

今号の表紙

「母と息子」 生野 宏宜

川原で拾った自然石に手を加えた彫刻である。永い年月をかけて造られた自然の形は、それだけで完成した彫刻である。その形を壊さないように解釈を添える。
最小限の加工で最大限のイメージを表現する作業である。我が子の肩を抱き手を取って何かに立ち向かう女。母の温もりに守られながら何かを決意する少年…。小さな石の中に人の感情の原点を見た。(しょうのひろたか)



高知を撮る

沈下橋南詰付近 (昭和30年前後 大原町)

江川一義

第15回写真コンテスト入賞作品

夏の日、今はない沈下橋南詰を撮影したもの。
店の小屋、泳ぎに来ていた子供たち。遠くに遊園地の塔と思われるものが見える。

「このような名前でない」と予算は買えませんか」と大學生はぼやく。どうやらこの「改革」には大学の外に仕掛け人がいるようである。
仕掛け人たちは、大学予算の「有効配分」のため、とりあえず大学を、主に中央の「研究主体大学」と、主に地方の「教育主体大学」とに選別しよう。

カンコクニンジョウ

風俗歳時記



本来、文化や学問は人類の「暇」が生み出した壮大な結晶である。最近小中学校で流行の「ゆとり」は大学にこそ必要であり、市場原理で大学を測ることなど大変恥ずかしいことである。大学には木枯らしより春風がよく似合う。

樽によると、国立大学を法人化して、業績の上がらぬ大学は整理する動きがあるらしい。大学は企業体とも考えられる。ただ、普通の企業は目前の利益を追求しているが、大学は遠い未来の利益を追求している。当期の決算が赤字になるのは当然である。

としているかに見える。地方の大学で行われている研究が、その地方だけでなく、日本や世界の学問や文化にどれだけ貢献しているか、どうも世間一般には理解されていないようである。これには象牙の塔に安住していた大学にも責任があるう。ともあれ、文化に無理解な人々たちによって、一国の文化の将来が左右されるとは淋しい話である。

第16回写真コンテスト・高知を撮る 入 選 作 品 展

「写真コンテスト・高知を撮る」の入選作品(特選、準特選、入選)を展示します。いずれも作者の愛情の感じられる力作揃いであり高知の風景や生活を知る貴重な資料ともなっています。作者の方々の熱意を知っていただき、写真が語りかける高知の良さを感じていただけたら幸いです。

- 日程 3月10日(金)～3月20日(月)
- 時間 10:00～18:00 会期中無休
- 場所 市民フロア
(はりまや橋・デンテッターミナルビル5階)



土居重俊・浜田数義 編 高知県方言辞典

古語から現代語にいたる土佐言葉一万四、七〇〇余の意味、用例、使用地点等を明示。注釈も加えた土佐方言唯一最大の辞書。
A5判・七三六頁 本体価格六、〇〇〇円

中西安男 著 やっさんの

わくわく動物記

野生動物の生態や習性・個性がいきいきと描かれ、読み物としてもおもしろいだけでなく、手軽な動物ガイドブックとしても最適。
A5判・一九二頁 本体価格一、八〇〇円

山本 大 著 幕末の青春

坂本龍馬の生涯

激動の幕末期を駆け抜けた坂本龍馬の一生を、史実に基づき分かりやすく描いた、子供から大人まで親しめる屈指の龍馬伝。
四六判・一六八頁 本体価格一、一六五円

山岡 浩 著 高知の農業

地域農業・農産・農に生きる人々をつぶさに訪ね高知県農業の実像を明らかにするとともに、特徴的な産地づくり事例を紹介。
A5判・二四八頁 本体価格一、八〇〇円

坂本正夫 著 土佐の習俗 婚姻と子育て

民俗学の宝庫といわれる土佐の村々を歩き、土地の古老たちから伝承を採集。三十五年にわたる調査研究の中から婚姻と子育てに関する伝承・習俗を体系的にまとめた書。
四六判・二〇〇頁 本体価格一、四〇〇円

外崎光広 著 土佐自由民権運動史

著者の四十年に及ぶ研究を集成。新資料による知見も盛り込みながら、土佐自由民権運動の全容を通史として明らかにした。
A5判・四二四頁 本体価格二、七一九円